

第 1353 回 2024 年 1 月 24 日 (水)

移動例会 神田明神昇殿参拝

神田神社禰宜 岸川 雅範様のお話

神田明神は、去年「VIVANT」というドラマのロケ地になり、多くの参拝者、観光客がいらっしやいました。また今年 1 月 1 日 NHK「ゆく年くる年」で神田明神がキーステーションになり、NHK「おはよう日本」でも神田祭を取り上げていただき、注目された年でした。



なにより、神田明神や神田明神の氏子の皆様にとって注目すべきは、神田祭が 4 年ぶりに復活したことではないかと思えます。

神幸祭(しんこうさい)という地域に出ていく御神輿の発輦祭(はつれんさい)は、途中雨が降りましたが無事に全ての行程を回ることができました。翌日には氏子町会の皆様が御神輿を担がれて、100 基くらいが神田明神に神輿宮入で神社の方にお参りし、氏子さんたちと共に盛り上がる中で神田祭を終える事ができました。神田祭は「江戸の華」「天下祭」、日本三大祭りの 1 つと言われております。神田明神は天平 2 年(730 年)の創建ですが、神田祭は江戸時代になってから大きくなっていきます。江戸幕府の公式の年中行事がこの神田祭で、神田の町自体が江戸城の中にあり、内廓(武道館の辺り)や、大名屋敷(田安御門から武道館の方に入っていく部分)が並び、おいそれと入れないところに入ることができたのが神田祭です。時には将軍様、大奥女中、御台所という徳川の婦人らのご覧になったということで、後世、昭和初期ぐらいに天下祭と言われるようになっていきます。

江戸城は太田道灌が建て、その後徳川家康が拡張して大きくしていきました。その近くに神田明神があり、現在の将門塚がある辺りにありました。江戸城近くに神田明神があった頃に何が起こったかという、関ヶ原の戦いが起こり、1600 年 9 月 15 日に徳川家康が勝利します。神田明神はそれに因んで、勝ち守りという御守を授与しております。関ヶ原の戦いに勝利した 9 月 15 日が、江戸時代の神田祭の日で縁起がいいということで、江戸幕府にとって神田祭が非常に重要に大事にされていきます。また江戸城から関ヶ原に向かう際に徳川家康が神田明神にお参りしたであろうということが去年わかってきました。それを明言されたのが、小和田哲男さん、戦国時代の歴史学者の権威です。

マニアックな話ですが、神田祭の江戸時代の神輿は神社が管理する宮神輿のみです。氏子町会が持っている町神輿は江戸時代には一切出でおらず、出るようになるのは大正時代ぐらいです。神田明神の神田祭の神輿は、江戸幕府によって作られたり、寄付されたり、修復されたりしております。担ぎ手も日本橋の南伝馬町、大伝馬町の人たちが雇った人足が担いでいて、氏子が担ぐことは一切ありませんでした。

それが、大正時代に大鳳輦が一気にまとめられ、その後現在の神田祭の宮神輿にも影響を与えています。形はほとんど同じで、色は金びかです。これは江戸の御神輿の文化ではなく京都です。京都の文化を大正時代に持ってきて神田祭の御神輿にしました。今の神田祭

は、江戸と京都の文化が混ざっている状態になっています。現在屋根の色は黒っぽく非常に厳かです。

宮神輿と言われるのが、一ノ宮鳳輦、二ノ宮神輿、三ノ宮鳳輦と三基あり、そこにお乗りになる神様が、大己貴命(おおなむちのみこと)大黒様です。続きまして、少彦名命(すくなひこなのみこと)恵比寿様です。三柱目の神様は、平将門尊(たいらのまさかどのみこと)将門公をお祀りしております。平将門尊ですが、明治 7 年に将門神社が作られ、神田明神の御祭神から将門神社の神様になり、それが 40 年前の昭和 59 年に復座されます。今年是将門公が神田明神に復帰されて 40 周年にあたる非常にいい年です。

また明治 7 年に少彦名命が神田明神の神様としてお祀りされるのですが、150 年ということで「えびす祭」というものを去年の 8 月にはじめました。アルフィーの高見澤俊彦さんが「特撮家族」という小説を書いております。この少彦名命がいっぱい出てきます。高見澤さんが神様の話が聞きたいといらっしやって、少彦名命の話をしたら非常に気になられたようで、先程の小説にたくさん出てくるようになりました。ちょうど 150 年目になるお話をして、えびす祭のトークイベントにも出て頂き、今もご縁があります。

「ご縁」というと、大己貴命は縁結びの神様とされています。出雲大社にお祀りされる大国主命(おおくにぬしのみこと)と同じ神様で、10 月神無月に神様が出雲大社に集まり、縁結びの相談をしております。大己貴命はいろんな神様と結婚されているということから、縁結びの神様として非常に信仰されています。

縁結びの「結び」という言葉が神道の中では重要で、「むすひ(産霊)」と言う言葉になります。霊を産むという、霊というのは神秘的な力、神様の力という意味ですが、それを産む力、これが「むすひ」です。人と人とが結ばれることによって、何かが産まれるというのが縁結び、という意味なのです。

現在神田明神は「創建 1300 年記念事業」をやっております。その中心は、神様がいらっしやる御社殿の修復事業です。清水建設と調査をしておりますが、この社殿は昭和 9 年に鉄骨鉄筋コンクリートで作られました。いろいろ耐震を調べてもらったのですが、耐震はあまり問題ないそうです。鉄骨鉄筋コンクリートは大体 60 年と言われておりますが、90 年経っても現在の耐震をクリアしております。屋根もそこまで劣化しておりませんが、でもここ 10 年でまた劣化するので貼り替えは検討中です。危惧されるのは天井で、天井だけが怖いのではないかとされておりまして。昭和 9 年当時、この造営された鉄骨鉄筋コンクリートの社殿は、かなりレベルの高い形で作られたのではないかとされておりまして。当時トップだった阪谷 芳郎さん(渋沢栄一の娘婿)や、氏子総代も尽力して建てられました。現在の社殿は、明神会館に繋がる地下道があります。さらに社殿に靴のままで入ることができますが、それも昭和 9 年当時の靴の文化を反映させて現代的な形にしてあり、その他いろいろな工夫がされています。かなり詳細に細密に作られているので、修復もお金がかかるだろうと思っております。皆様ご協力をお願いしたいと思います。ちなみに私は、この創建 1300 年記念事業部の部長に去年の年末になり、部下はおらず 1 人部長をやっております。寄付の方よろしく申し上げます。

広報の担当をしていたので、深夜食堂の作家の安倍夜郎さんや、孤独のグルメの原作者の久住昌之さん、一昔前はこち亀の作者、集英社の社長、初代タイガー

マスク佐山聡さんなど、有名な方々にご縁をいただいて、みなさん神田明神を非常に崇敬されて、いろんなことを取り込んでおります。こういう有名な方々だけではなく、私はどちらかというと現場の人間なので、現場の方々ともいろいろご縁をいただいております。これをきっかけに皆さんともご縁をいただければと思います。

神田明神の神様というのは非常に靈驗あらたかな神様だと私も思っております。みなさんもこうしてお越しになって色々なご縁を結ばれているのだと思います。

尻切れトンボですが、私の話終わらせていただければと思います。ありがとうございました。

